

周術期口腔機能管理

周術期口腔機能管理というと何か非常に難しいことのように聞こえます。噛み砕いて解釈すると、手術を受けられる患者様が入院中に歯や口のトラブルが生じず、患者様や医療スタッフが口腔ケアを実施しやすいように口腔環境を整備しておくというものです。なぜ、そういう概念が重要であると言われるようになったのでしょうか？

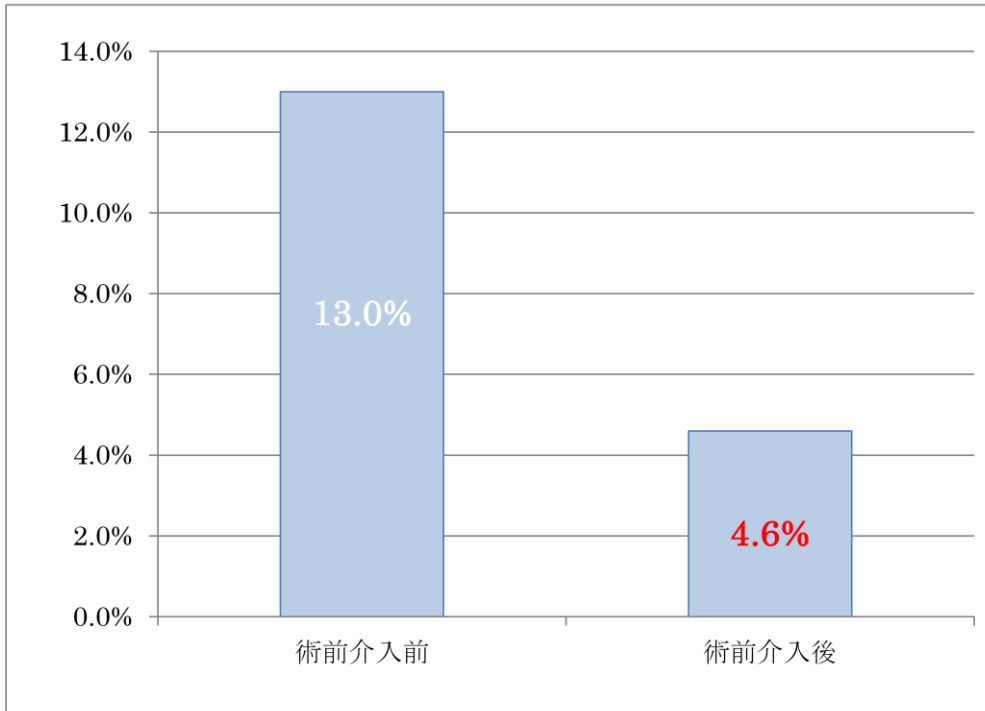
1999年に高齢者施設での肺炎予防に「口腔ケア」が有効であるという研究が発表されました。また、大学病院の食道がんの手術後にしばしば起こる術後肺炎が、術前に「口腔ケア」を施すことによって肺炎の発症率を減らすことかできると報告されました。また、手術前の口腔衛生状態を改善するためには「口腔ケア」だけでは不十分な場合が多く、口腔ケアに加えて歯科治療を積極的に行っていくことで肺炎などの術後の合併症を減らそうという周術期口腔機能管理の概念が重要であると言われはじめました(図1)。このように口腔と全身の健康がリンクしているということが明らかにされるにしたがって周術期口腔機能管理のニーズが高まってきたといえます。

周術期口腔機能管理を行うには、まず手術を担当する医師が依頼し、歯科医師がその計画を策定し、歯科医師・歯科衛生士が患者様の口腔環境の整備を意識して管理します(図2)。例えば、かかりつけの歯科医院に通院中の患者様から「来月入院して全身麻酔で手術をうけることになりました」と聞いた場合には、今までであれば歯科治療は手術後に先延ばしにしていたかも知れませんが、これからは周術期口腔機能管理の概念の下、術前から積極的に介入、治療を行っていくこととなります。ただ、計画を立てる際に手術までの時間という要素を考慮する必要があります。患者様が手術のために入院する前のできるだけ早い時期に周術期口腔機能管理を依頼されるのが理想的ではありますが、現実的には直前になることが多いです。そのため、提供できる治療に制約が生じてくるため、計画を立てる際には最重要事項を考慮し、限られた時間内で治療の最適化を図る必要があります。言い換えると、口腔環境の整備をできる範囲で実施することを考慮します。

福山市民病院歯科口腔外科では、当院で手術を受けられる患者様の入院中の口のトラブルをなくし、早期に退院できるように各診療科と連携しチームアプローチの一翼を担うべく周術期口腔機能管理を積極的に行っていきたいと考えています。しかしながら、当科だけでは非常にたくさんの患者様を管理するには限界があります。そのため、基本的には当科で周術期口腔機能管理の計画を策定し、かかりつけ歯科医の先生に管理して頂けるように福山市歯科医師会の先生方との連携を構築致しました。患者様が少しでも快適に入院生活を送って頂けるよう我々歯科口腔外科スタッフ一同努力していきたいと思っております。

図1

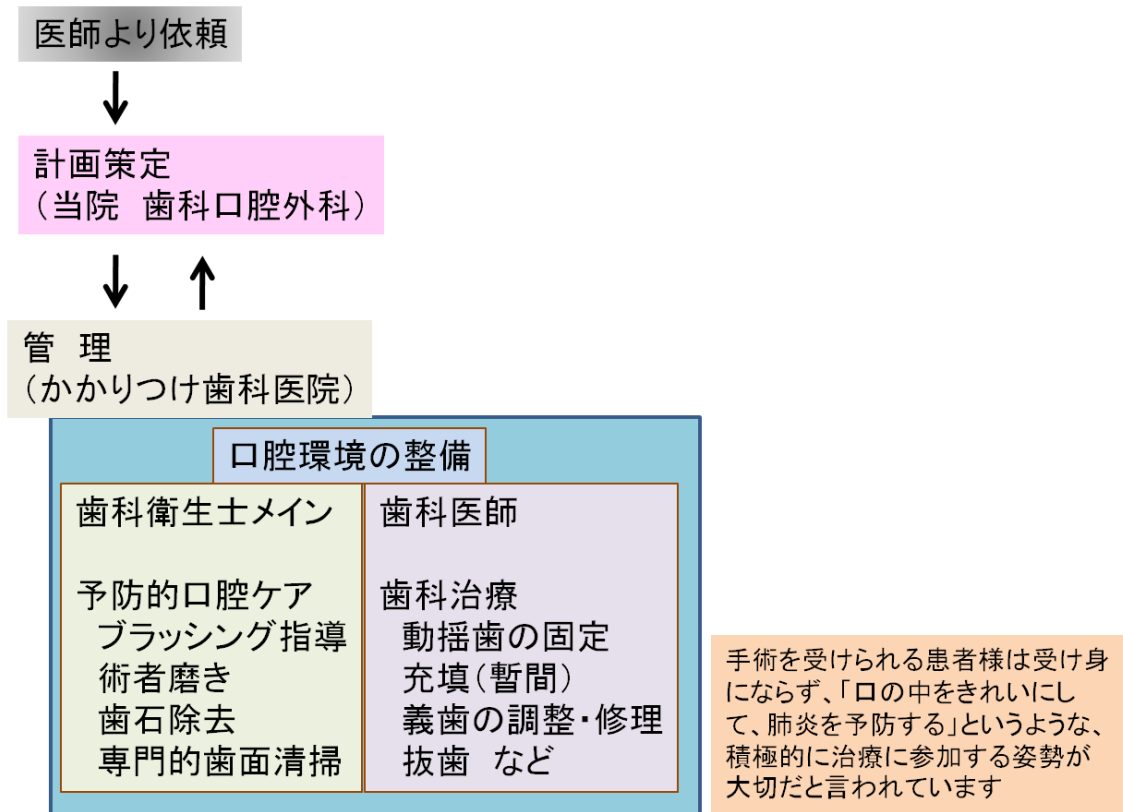
＜歯科医師の術前・術後の介入による評価＞
(肺がん手術後肺炎の発症頻度)



術前の口腔環境の整備と術後の嚥下の評価などへ歯科医師の介入によって術後肺炎発症率は有意に抑えられた (岡山大学病院)

厚生労働省:中央社会保険医療協議会総会第209回歯科診療報酬について(資料総-5)

図2



周術期口腔機能管理のポイント